日本行動計量学会会報
第21号
1980年4月15日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

計量医学の要

駒沢勉

統計数理研究所に入所してからこの六月で二十一年になる。医学関係の分野の研究者との結びつきは入所後三年目の昭和三十七年であったと思う。現在の研究所の建物が出来る前で、大正時代の立派な木造の建物に間借りしていた頃である。脱線ついでにいうと、研究所の今の敷地は日本の国勢調査発祥の地である。昭和四十三年に総理府から文部省に移管されたが、当時、歴代の統計局長がなかなか移管の書類に印を押さなかったという。今思えば、担当局長としてはもっともなことであったろう。

話を本題に戻そう。近年の生物学・医学の発展には理工学分野の寄与が大きいことは周知の通りである。林知己夫先生が医学のデータ解析の研究に専念する糸口をつくって下さった昭和三十七年の秋に日本ME学会が発足した。ここに、理工学と医学とが結集し相互協力の学術・医療の本格的研究の発表の場が用意されるようになった。特に、情報処理の道具だてのコンピュータと統計数理の理論・方法論はこの分野での利用で急速な発展をみせてきた。ところで、現実問題として両分野の有機的な結合のためには、あまりにも強力な専門者意識の溝を埋める必要がある。現実には両分野の研究者の緊密な協力関係と不断の努力の結果、そのギャップが埋っているが。

今では笑い話となるが、大動脈硬化の指標を作る目的の研究に協力した時のことである。大動脈の構築要素と脈波速度を重回帰分析した結果を病理学会でグループ発表した。その時、構築要素の大動脈の内膜・中膜の弾性線維・膠原線維・筋細胞の重みを数値で示した。その結果を聞いていたその道の大先生が、1とか9とか重みで硬化度を判定するとは何ごとぞ、と私達の研究を批判された。今から十六・七年前のことである。今日ではその大先生の研究グループが多変量解析を取り入れている。

私が病理学会の発表にはじめて加わった時、医学研究者との接触も浅く、データの背後の現象を知ることなく統計解析を機械的に行っていた。一方、医学者の側では解析結果を鵜呑みにして消化不良のまま表現していたように思う。その後、研究生活を共にし（日本の医学研究者は昼間の診療・夜間の研究活動と実に精力的な人間だと思う）、時には酒を酌みかわしながら語らった。研究面の相互理解ができるまでに約三年の歳月がかかったと記憶している。

私の体験からいうと、ノウハウ的手法整備を含めて、データ解析の理論・方法論を開発する側は応用分野のデータに接し、データが手軽に得られるものではないことを知る必要がある。また、解析法を利用する側はデータさえ取ればあとは統計プログラムによってすばらしい結果が得られるなどと考えてはならない。データの背後のことをよく理論屋に知らしめて、どのようにデータ解析処理をすればよりよい結果が得られるか周到な分析計画が必要である。

この意味で、今後とも私は医学と理工学の接点に飛び込み、私の刀である多次元データ解析を使って計量診断・治療の研究を支えていくつもりである。また、未来の医学と理工学の創造の中核の一端を背う行動計量研究の活動を進めていきたいと日ごろ念じている。

（日本行動計量学会理事、統計数理研究所室長）

学会誌へ論文の投稿を！

欧文誌、和文誌ともに、年二回発行です。投稿を歓迎します。

新委員（運営・編集・刊行物）決まる

先の理事会で、つぎの方々に今期の運営、編集および刊行物委員会の委員を委嘱することになった。任期は二年。

◆運営委員会（二十八名）

（委員長）鮑戸弘（東大新聞研）
（副委員長）駒澤勉（統数研）
井上通敏（阪大医）、海野道郎（関学大社会）、江川清（国語研）、岡太彬訓（立大社会）、梶谷文彦（川崎医大）、久保武士（筑波大医）、斉藤堯幸（北大文）、佐和隆光（京大経済研）、繁桝算男（東北大教）、杉山明子（NHK放送世論）、関田康慶（東北大医）、高杉成一（東大医）、田栗正章（千葉大理）、寺尾浩明（帝京大医）、直井優（東大文）、中江公裕（独協医大）、中谷和夫（京大教養）、西川泰夫（上智大文）、林峻一郎（慶大医）、広瀬弘忠（東女大文理）、星守（千葉大工）、堀洋道（筑波大心理）、牧田亮（東大新聞研）、丸山久美子（青学大）、村上隆（名大教）、山本真理子（都立大人文）

なお、各職務の幹事はつぎの通りである。（○印は主査）

△月例シンポジウム担当▽○杉山明子、広瀬弘忠、久保武士
△講習会担当▽○岡太彬訓、直井優、牧田亮
△広報担当▽○江川清、林峻一郎、山本真理子
△関西連絡担当▽井上通敏、梶谷文彦

◆編集委員会（七十名）

（委員長）肥田野直（東大教育）
（欧編集長）＊松原望（筑波大社工）
（和編集長）。池田央（東工大教育工学開発センター）
（委員）鮑戸弘（東大新聞研）、浅井晃（千葉大理）、浅野長一郎（九大理）、阿部裕（阪大医）、生沢雅夫（大阪市大文）、石村善助（都立大人文）、井関利明（慶大文）、井上通敏（阪大医）、。岩坪秀一（大学入試センター）、＊印東太郎（カリフォルニア大）、梅沢勉（警視庁）、浦昭二（慶大工）、大島正光（医療情報システム）、丘本正（阪大基礎工）、奥野忠一（東工大）、小野茂（広大総合科学）、梶田叡一（日女大文）、。柏木繁男（千葉大人文）、＊上笹恒（筑波大哲思）、茅陽一（東工大）、河口至商（北大工）、木下冨雄（京大教養）、木村栄一（日医大）、京極純一（東大法）、工藤昭夫（九大理）、小嶋外弘（同志社大文）、駒沢勉（統数研）、斉尾幹二郎（東大農）、斉藤陽一（東大医）、＊佐伯胖（理大理工）、芝祐順（東大教育）、＊杉浦成昭（筑波大数）、鈴木達三（統数研）、関寛治（東大東洋文化研）、瀬谷正敏（青学大文）、竹内啓（東大経）、戸田正直（北大文）、西田春彦（阪大人間科学）、。西村恕彦（東農工大工）、＊野崎昭弘（国際キリスト教大教養）、。野元菊雄（国語研）、早川武夫（専大法）、林知己夫（統数研）、広田安夫（九州歯大）、藤田広一（慶大工）、。伏見正則（東工大）、。藤本熙（統数研）、。古川俊之（東大医）、。前田俊郎（専大法）、。増山英太郎（都立大人文）、松村良之（北大法）、＊丸山久美子（青学大）、水野欽司（統数研）、三隅二不二（阪大人間科学）、三宅一郎（同志社大法）、＊宮原英夫（北里大医）、宮原守男（虎の門法律事務所）、村田昭治（慶大商）、安田三郎（関学大社会）、安本美典（産業能率大経営情報）、。柳井晴夫（千葉大人文）、山本俊一（東大医）、。山本幹夫（帝京大医）、。吉沢正（山梨大工）、吉田正昭（中大理工）、脇本和昌（岡山大教養）

（＊印は編集委員のうち実務を担当する欧文誌編集幹事、。印は和文誌編集幹事）

◆刊行物委員会（六名）

（委員長）山本俊一（東大医）
（委員）林知己夫（統数研）、岩坪秀一（大学入試センター）
松原望（筑波大社工）、安本美典（産業能率大経営情報）、柳井晴夫（千葉大人文）

五十五年度会費の納入を！

新しい年度が始まりました。学会費を早目にご納入下さい。先年度分滞納の方はそれもよろしくお願いします。正会員は四千円、準会員は二千五百円です。

送金は振替（振替番号、東京八—一四八〇五六、日本行動計量学会）をご利用ください。

会議議事録

◇理事会（十一月二十二日）
於　統計数理研究所
出席者　理事　十名

1. 野元総会担当理事の報告にもとづき昭和五十五年度の第八回総会は慶応大学で開催する。慶大工学部・藤田廣一氏と連絡をとり準備を進める。
2. 新運営委員の委嘱に関して鮑戸委員長の提案により、副委員長を駒澤理事とし、委員の具体的な人選は正・副両委員長に一任する。
3. 新編集委員については、担当理事提案の、辞退者を除く旧委員の留任と新理事の追加を承認し、その他の適任者の人選は担当理事に一任した。
4. 刊行物委員は、従来の経緯をふまえ、留任を原則とし、山本委員長ほか6名とする。
5. 当面の学会状況に関し意見を交換、今後の活動を担当理事を中心に検討することにした。

◇理事会（四月三日）
於　統計数理研究所
出席者　理事八名

1. 慶応大学で開催される第八回総会の準備経過について、実行委員会に代って事務局が説明、これを了承した。なお、第八回より「総会」を「大会」と改称する。また、第九回大会開催校を早目に予定する。
2. 各種委員の委嘱を各担当理事の原案どおり決定した。（2ページ参照）
3. 活動部門別の独立会計方式、会費値上げの問題などについて事務局が検討する。

◇運営委員会（三月一日）
於　統計数理研究所
出席者　運営委員　十六名

1. 今後の運営は、全委員が、各職務のいずれかを担当することとし、各担当内での委員間の連絡を密にし、全体の運営委員会は年二回ほど開く。また、事務局と運営委員会との役割分担について、調整と検討が行われた。
2. 多変量解析に関する講習会を大阪で開催する。
3. 従来、講習会としていた「医学生のための行動計量学」は、今後、隔年ごとの特別講習会とする。
4. 今後の活動について意見交換。

〃〃〃〃〃 新運営委員会がスタート

運営委員長　鮑戸　弘

すこし発足が遅れましたが、このたびようやく新しい運営委員会が発足しました。今回は総人数も従来の約半数に減らし、かつ若返りを図ることを方針として、旧委員会との連続性を保つため一部の方に引続いてお残りいただくほかは、できるだけ新しい方を含めるよう人選させていただきました。

また、運営にあたっては、幹事制度をとり入れ、すべて幹事を中心として機動的に運営していただくことになりました。会の活動についてのアイデア・依頼・サジェスチョンなどありましたら、担当幹事あてに、どしどしご連絡いただければ幸甚です。

M・ルウ氏（仏国立科学研究センター）が各地で講演

来日中の、フランス国立科学研究センターの主任研究員M・ルウ氏（M. Roux）が、フランスのデータ解析の話題を中心に各地で講演会を開きます。ふるってご参集ください。

詳細は、同氏のお世話に当たっている大隅昇氏（統数研、電〇三―四四六―一五〇一）にお問い合わせください。

◎五月八日、電通（東京）
◎五月二十七日、輿論科学協会（東京・国際文化会館）
◎五月三十日、NHK放送世論調査所（東京）
◎六月十日～十六日、北海道大学文学部（札幌）

〃総会〃から〃大会〃へ！

九月四日から三日間、慶応大学で「第八回大会」が開催されます。いままで〃総会〃とよんでいたものを改称したわけです。

従前の総会には二通りの意味がありました。狭義には、学会の全成員によって総合的意思決定を行う最高決議機会の意です。ところが、研究発表などを含めた三日間のスケジュールの全体もまた〃総会〃と呼んだわけです。単に、総会という場合、どちらを指すかが不明確でした。そこで、次回から広義の総会を大会と改め、狭義のものと区別することにしました。

会員の皆さん、ふるって〃大会〃に参加し、研究発表だけでなく〃総会〃にも出席して下さい。

ある調査にて

会員の声

久野　覚

一昨年の六月にある都市へ、アンケート調査の手伝いに出かけた。調査の主たる内容は、生活環境に関係したものだったが、その留置のアンケートと並行して、各家庭で写真撮影をさせてもらい、空とか緑の量といった物理量や日照時間の測定を行なった。そこでついでに、私の興味から、日照意識の面接調査もさせてもらった。

大学の職員用の団地のうちの一戸がサンプルにあたった。留置のアンケートはすでに他の調査員が回収していて、後は私が写真をとるだけだった。回収した調査票には、「こんな調査は無駄だ、写真もいやだ」と書いてあったので、こりゃ駄目だ、行くのやだなと思っていたのだが、実際に行ってみると、回答した御主人は海外出張に出かけたばかりで留守であった。これ幸いと奥さんを口説き、写真をとらせてもらった（誤解なさらぬように、念のため）。そして、日照時間などについて、いろいろと聞いたが、奥さんの返事はどうも要領を得ず、なんだかおかしい。そこで、南はどちらですかと聞いてみたが、全く違う方角を指さす。何故ですかとたずねると、北の窓から夕日が入ると答える。そしてこの建物は南向きよりずれていると主張する。

私としては興味深いやりとりだった。人間の意識とはそんなものかと思った。さすがに、ORをやっているという御主人はわかっていて、こんな調査は無駄だと言ったに違いない。でも、そんなものならそんなものだと把握する必要が建築学にはあるんだ、と思った。

（日本行動計量学会会員・東京大学建築学大学院生）

編集後記

◆本号から会報の編集を新しい運営委員会の広報係（2ページ）が務めます。前号までは、広報係で事務局を兼ねる水野欽司氏がほぼお一人で編集されてきました。水野さん、御苦労様でした。

御存知のように、学会の事務局はいずこも多大の事務量をかかえています。今回の交代で事務局の負担を多少でも軽減できればと思っています。何分にも不慣れであるため、お見苦しい点が多々あるかと思いますが、よろしく御寛容のほどお願いします。

◆前任者のお話によると、会報の編集上の最大の難点は記事を集めること、だそうです。会報には、学会からのお知らせという役割の他に、会員相互の意思を反映する機能があります。どちらかといえば後者のほうが重要ではないでしょうか。その意味で、会員の声、グループの活動状況、雑報その他どのようなことでも結構ですので、どしどしお寄せ下さい。

◆次号から「質問箱」（仮称）の欄を設ける予定です。これは、行動計量学に関する会員からの質問や疑問に対して、別の会員が答えるという形式のものです。初歩的なものから高級なものまで別に範囲を限定するつもりはありませんので、広範囲の質問をお寄せ下さい。なお、勝手ながら、質問は封書またはハガキでお願いします。

◆最後になりましたが、会報を充実させるための御意見などをお聞かせ下さい。

（江川）

学会誌バックナンバーの購入

ご希望の巻・号名を記入し、代金と送料を郵便振替（2ページ左下参照）で、お送り下さい。

◇行動計量学　1巻1号（八百円）
2巻1号・2号（各七百円）
3巻1号・2号（各千円）
4巻1号・2号（各千五百円）
5巻1号・2号（各千七百円）
6巻1号（千二百円）
6巻2号・7巻1号（各二千円）

◇Behaviormetrika
No.1～No.6　いずれも二千円
◇送料　一冊（二百円）、三冊まで（三百円）、五冊まで（六百円）

月例シンポジウム記録

○第二十五回〝環境問題とその計量化〟（オーガナイザー山本俊一・東大医および浅井晃・千葉大理）、昭和五十四年十月二十日、統数研、参加者四五名。

○第二十六回〝教育工学における計量モデル〟（オーガナイザー永岡慶三・神戸大教および脇本和昌・岡山大教養）、昭和五十五年二月十四日、神戸大教育工学センター、参加者三六名。

◎会員（四月九日現在）
（正）八九三人（準）一七六人
（賛助）三〇法人